



11.3 憲法集会

不屈

「不屈」  
No.570 付録  
高知版No.415  
2021.12.15

---

治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
高知県本部

発行責任者  
森岡 幸一  
TEL・FAX  
088-841-0072

# 「憲法公布七十五周年県民のつどい」に百五十人

徳弘 嘉孝

今年の憲法集会は総選挙の開票から三日たった十一月三日、「こうち九条の会」と「女性九条の会」高知が共催して高知市内で開かれました。総選挙の結果改憲勢力が衆議院で三分の二を超えたことに強い危機感を持った人たちが詰めかけました。

広島で中学生の時に被曝した植野克彦さんは、自分の被爆体験を語りました。思い出したくない広島のことを語りだしたのは八〇才を過ぎてからだだったこと、国の在り方が変えられることに黙っていることはできない、平和な日本にするために何ができるのかを大事にしていくと述べました。

県立大学名誉教授の松崎淳子さんは、国のために死ぬことが美学であると思わされて

育ってきた。終戦の日に下司先生から生き方に関する話を聞いたこと、日本国憲法は国民主権や男女平等など、まさに夜明けであったと語りました。現在高知九条の会の呼びかけ人代表の一人でもあり「九条は絶対を守る」と力を込められました。

亡くなった作家で九条の会呼びかけ人の井上ひさしさんが生前に講演されたDVDを視聴しました。ハーグ条約や中立国のことなど、ユーモアを交えた語りには参加者から大きな反響がありました。

来年の参議院選挙に向けて多いに語り、行動を重ねて改憲勢力の野望を砕かねばなりません。当面二月十一日には「檻の中のライオン」の榎大樹弁護士講演会が予定されています。

故 猪野 睦氏 作品  
「埋もれてきた群像より」  
ナルプ解体前後

高知県内のプロレタリア文学運動が潰滅に追い込まれていったのは、一九三三年四月二十一日と、翌三三年七月七日の二度にわたる一斉検挙によつてだった。四月二十一日では作家同盟高知支部がやられ、つづいて七月には高北地区が解体し、あと一年近く作家同盟の旗をかがげ続けた幡多地区も、翌年七月七日の一斉検挙でつぶされていった。

中央でも三二年から三三年にかけて、検挙、機関誌の発禁押収がつづき、『プロレタリア文学』『文学新聞』『コップ』『大衆の友』などが廃刊に追い込まれた。中絶、途切れ廃刊だった。

『プロレタリア文学』一九三三年四・五月合併号の「編輯後記」には、三月号は小林

多喜二労農葬の「直前に製本屋を襲はれ、まったたく一冊もこのさず押収された。そこで急拠四月号を小林多喜二特輯号として刊行とすることに決し、その編輯をすゝめつつあったが、発行が遅延してゐる間に、敵は編輯部員、出版部員を虱つぶしに襲ひ、特輯号を発行させまいためにあらゆる種類の妨害を試みた」とで

「編輯プラン予告に示す如く」と一ページの次号プランもいれたが、これが最終号となった。『文学新聞』も一九三三年十月五日の第三十二号で途切れ廃刊となった。地方の刊行物をうけとる組織がつぶされていった。

高知では一九三二年四月二十一日一斉検挙で作家同盟高知支部がつぶされたあと、作家同盟再建がこころみられてきた。再建では共青高知市委員会の文化団体フлакシオン担当となった黒原善太郎が、作家同盟再建委員会をつくり再建にとりくんでいくが、三年七月七日、連絡をまっていた田村乙彦、仙頭清五郎、古味峯次郎らが、幡多『慕進』グループとともに検挙された。そのあと八月に黒原善太郎は検挙され、十月五日に大條署で拷問死した。芽をつぶして

この最終号となる十月号の「編輯後記」には、「日本に於けるプロレタリア文学運動が、今日程困難な情勢に当面したことはあるまい」とかきはじめ、「発行の遅延は」如何なる理由にせよ遺憾なことであり、

こうしただずたずたにされていくなかで作家同盟は一九三四年二月二十二日、ナルプ解体を決定、三月十二日、解体声明をだした。作家同盟の解体である。「ある力関係の下では我々の一時的後退は又止むを得ないこと」であり、地方では地方文学グループを形成し、「今日最も妥当なる合法的発表機関を中心」に活動に移

これ以降になると高知でも特高のうごきは、プロレタリア文学運動とかかわりのないところまで拡がっていた。詩

11月幹事会報告

☆同盟員

264名  
1名入会です。

☆署名

個人(278筆)

団体(2筆)

☆地方自治体意見書検討会議

担当・徳弘  
調査日程が未定でこれからです。

☆年賀広告・財政

会費長期未納者について担当から報告があり、今後の手立てを検討することになりました。

☆女性部・青年部

〈青年部〉  
幸徳秋水・非戦の碑除幕式の参加報告を受けました。

1月幹事会

1月15日(土)

14時

草の家

女性部の広場

2021総選挙 市民と野党の絆を確かめる

秦 愛

会員、読者の皆さん、総選挙はお疲れ様でした。

『自民一強』変わらず。シヨックや激励の声が寄せられました。50代非正規男性は「お疲れさまです。自民党はいかん、政権交代をねがう、声を聞いてきました。いざ蓋を開ければこのような結果で残念です。」と。また、30代自営業女性は「悔しい結果になりましたが、何度でも立上がり、世界がよい方向にいくために、たたかっています。よろしく！応援しています。」と。

高知でも自公VS野党共闘の選挙、全国的にも政権交代が焦点ともなる総選挙だと思いましたが、結果は自公が議席を減らすも過半数を取り、政権批判票は維新の議席を増

やし改憲勢力が3分の2に、平和憲法が改悪される危機が強まる状況となりました。

暮らしや経済の面から見て、どこが問題なのか。この勢力の共通点は格差と貧困を広げた弱肉強食の経済や雇用に対する削減、中山間を衰退させたきた農政を続けると言うことです。特に維新は野党を名乗り、自公政権を批判「自立」「身を切る改革」をテレビなど通じて『マスコミジャック』のごとく連呼していましたが、中身はどうでしょうか。

教育の無償化など急ぐべき大事な点もありますが、財源論が怖い！国民犠牲なのです。各公約の横軸には自己責任が貫かれ、生活保護などは明らかに削減、年金・医療・介護などでは、社会保障の削減による苦しみの原因をまとも

ていますが、要となる地方行政や議員は一律に削減する方向であり民意反映の仕組みは後退します。多様な民意が届かぬ政治は「民主主義」国家を担う事はできません。

特に、年間所得1億円を超える富裕層への課税も政党助成金や軍事費の削減も言わないう、結局、身を切るのは私たち国民、弱者なのです。

では、希望はどこにあるのでしょうか。それは、原発ゼロで温暖化対策や中小企業支援とセットでの雇用対策、辺野古基地撤回、消費税減税、ジェンダー平等やLGBTなど人権の尊重など、20項目もの野党共通の公約、政策の実現です。

今こそ市民も、野党もスクラムを固め直して、立ち上がり叫ぶ時ではないでしょうか。選挙後、4野党が今後も共闘することを誓いました。11月10日、れいわ新選組の山本太郎代表は「この地獄

に、いかにブレーキをかけるか。私たちは小さな存在だが最大限の力を発揮する」と述べ、12日、立憲民主党の枝野幸男代表は「新代表の下で政権獲得に向けて一致結束して進んでもらいたい」、社民党・福島瑞穂党首は「憲法改正の動きがある、9条を変えて戦争できる国にするのは大問題だ、たくさんの人と力を合わせて阻止したい」、日本共産党・志位和夫委員長は「衆院選挙で岸田政権の正体が安倍、菅政治の継承だと明らかになった。政治を変える新たな戦いに臨もう、参院選挙で躍進するために奮闘しよう」と語っています。

本당にどの政党が伸びる事が、あなたの未来や平和の為なのか。私たち国民にも見抜く力が問われていると思います。女性部も支え合いを広げ、コロナ禍の不自由を乗り越えながら学び、平和を訴え、今後も「野党共闘」の前進の為

に、草の根から平和を守る担い手として、本領発揮することを誓います。

#### 伊藤千代子映画製作ニュース

会員の皆様の協力を頂き債権20口を送金しました。事務局よりお礼が入っていますので掲載します。

#### 治安維持法国賠同盟高知県本部 御中

拝啓 新型コロナウイルスの蔓延の中ですが、お元気で活躍のことと拝察します。

この度、劇映画「わが青春つきるとも」伊藤千代子の生涯「製作企画支援の(製作資金110万円)」を拠出いただき心よりお礼申し上げます。拠出戴きました製作資金と協賛募金は、「映画製作を支援する全国の会」(サポーターの会)でお預かりし、責任をもって製作者「ゴーゴービジュ

アル企画」へ全額をお渡し、後日上映債券を発行致します。

ご芳名は、当会が電子データで保存・サポーター会員登録し、向後、当会からの「ニュース」やお知らせなどをお届けさせて頂くことと致します。

12月、映画ロケを終了しました。全国公開は2022年4月をめざしています。

今後ともお力添えを戴きたくお願いし、お礼と致します。

敬 具

2021年11月16日

劇映画「わが青春つきるとも」伊藤千代子の生涯「製作を支援する全国の会」

会長 畑田重夫